

# Funehiki High School News vol.123

## ～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第3回 生徒会役員の皆さん

10月13日午後4時過ぎ、本校生徒会役員室。

数名の生徒たちが、真剣な表情で書類を確認していました。何をしているのか尋ねると、生徒の1人が顔を上げ、「体育祭の種目と出場者を確認しています」と答えてくれました。彼らは新しい生徒会役員。9月27日に任命されたばかりです。新体制がスタートして1カ月もたたないうちに体育祭を主催するため、役員は準備の真最中でした。

本校では毎年、9月から10月にかけて生徒会役員が変わります。新役員は当然、2年生と1年生。3年生の役員が引退し、これからは自分たちだけで354人の生徒を引っ張っていかねばなりません。会長の安田瑞季さん(2年、大越中出身)は、「活気ある船引高校」を目指す、と力強く抱負を語ってくれました。新役員には役員経験者もいることから、プレッシャーよりもやりがいを感じているように見えます。

とはいえ彼らは、先輩から引き継いだ本校の伝統を踏まえながらも、自分たちにしかできないことも模索しなければなりません。体育祭でも、フラフープ・リレーや借り物競走は、今回初めて取り入れた種目だそうです。ただ模倣するだけでは、勉強にはなっても創造までには至りません。そのことを生徒はよく理解しているようです。

ずっと真剣に準備作業に取り組んでいた役員の皆さん。作業中は高校生らしい無邪気さを感じさせなかった彼らですが、作業終了後は冗談を言い合って笑顔を見せてくれました。その等身大の姿と、高校生活への熱い思い。2つを併せ持つ彼らが、どんな1年間を創っていくのか。楽しみに見守っていきたいと思います。



▲校長から生徒会役員の任命を受けた新役員の皆さん。前列右から3人目が安田会長。



▲体育祭の準備作業中の役員の皆さん。

### ◆地域の皆さんとふれあって

昨年度から本校2学年が取り組んでいる「TAMULOVE PROJECT」。この活動は、田村市復興応援隊の協力のもと、本校生が地域の皆さんとの交流を通して地域理解を深めるものです。今年度は4月から、「地域の人を知る」というテーマで、地域活動を積極的に行っている方々からお話を聞きしてきました。

9月には、市内から講師をお招きし、以下の6つの体験講座を開きました。初めての体験に戸惑う生徒もいましたが、和やかな雰囲気の中、地域の皆さんとふれあいながら、田村市の良さを改めて感じることができました。講師の皆さん、ありがとうございました。

- 〈体験講座〉※( )内は講師
- じゅうねん餅・あんこ餅作り(愛都路の会:都路町)
  - つるし雛作成(ときわ木の会:常葉町)
  - スコップ三味線(コスモス会:船引町)
  - ヒマワリで製作(牧野ひまわりの会:大越町、写真上)
  - 消防団活動(常葉町女性消防団:常葉町)
  - 農業体験(さくま農園:船引町、写真下)

福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233  
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...[funehiki-h@fcs.ed.jp](mailto:funehiki-h@fcs.ed.jp)

## 来て初めて気づく



John Brandt  
ジョン・ブランドンさん  
(アメリカ合衆国  
ミズーリ州出身)  
田村市に来て2年目

僕が初めて田村に来た時、じつは、それほど驚きはありませんでした。というのも、日本に来る前、船引の写真を見たことがあったからです。

でも、実際に暮らしてみると、新たな発見がたくさんありましたね。大鐘神社と公園は、特に美しいと思います。来日してすぐに咲き始めた桜、特に大滝根川沿いの桜は、大好きになったものの一つ。提灯の明かりや朝日に映える桜を見ようと、日の出前に川沿いを走ったことさえあります。

いろいろな種類の食べ物屋さんも大好きです。アメリカには本格的な日本料理のレストランが少ないので、こちらの食事は毎回新鮮です。船引で食べ歩きするのがとても楽しいですね。イベントなどに行くのも大好き



10月5日 滝根中学校

き。船引は催しを楽しむのにちょうどいい場所ではないでしょうか。町が大きすぎないので混雑せず、人々が楽しく過ごすことができます。そして何より、田村の人は優しく親切ですね。僕はまだ日本語がうまくないので、生活で苦労もしますが、田村の人々はいつも僕に対して、我慢強く懸命にコミュニケーションをとってくれます。去年12月、僕の家族が来た際、皆さんがとても親切にしてくれ、母は「これまで日本人のような好意的な人々に会ったことはない」と感激していました。実際に来て初めて気づいた田村の素晴らしさ。それを僕は日々楽しんでいきます。

## 海を越えて 英語指導助手ペンリレー No. 53 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

## 伝わる直向きさ

10月16日午前、若草学園を訪ねると、英語指導助手の皆さんは、小学生英語活動集中プログラムの準備をしていました。このプログラムは、市立小学校の6年生が約10人ごとのグループに分かれて、他校の同級生と交流を図りながら英語に親しむ事業です。指導助手の皆さんは手作業で、色紙をはさみで切って飾りを作ったり、大きなカポチャをくり抜いたり、心から楽しそうに作業している姿が印象的でした。



作業後、皆さんとお話する機会をいただきました。「あなたのイチオシは？」と尋ねると、「家族。笑顔くれるから」と自分も笑顔。「子どもたちに最も伝えたいことは？」という質問には、「自

分が伝えうるすべて。田村に来たのは神様のお導き、運命だから」と真摯なまなざし。最後に「日本食はどう？」と聞くと、「梅干し・納豆はダメ」「寿司オイシイ」と、お昼時のせいが大盛り上がり。皆さんの笑顔やまなざしを見て、皆さんがこの遠い異国で、ひたむきに暮らしていることが伝わってきました。ご対応いただきありがとうございました!

